

15 小児の性格と口腔清掃効果の関連について

○河野幸子 緒方克也

緒方小児歯科医院・福岡市

小児へのブラッシング指導は、小児の心身の発達を把握し、その発達に見合った指導を行うことが必要である。また、小児のブラッシング効果に影響する因子として、小児自身の問題とは別に生活環境の状態や母親の育児態度などが上げられている。指導にはこれらを総合的に考慮して行わなければならないが、今回私たちは、小児の性格に着目し、性格別にみた清掃効果の相違について調査した。

調査の対象は、当歯科医院に来院した5歳児で齲蝕のみられない者と調査に影響のない修復処置後の乳歯列を有する者とした。

調査の方法は、歯垢染色剤を全歯牙に塗布し、小児自身による歯磨きを3分間施行させた。そして、磨き残しの状態を記録し、Bay法で評価した。小児の性格判断には、幼児の性格診断検査・太郎花子テストと幼児・児童性格診断検査用紙を用いた。

その後、性格診断テストの各項目別に傾向を見だし、Bay法で得たスコアを傾向別に分類した後、統計処理を行い比較検討した。

その結果、若干の知見を得たので報告する。